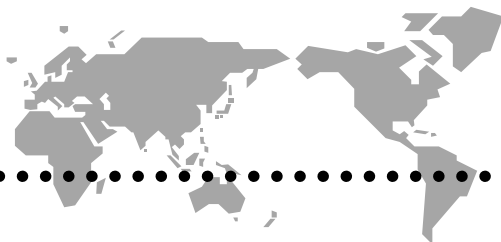




中学校



1

会社を作ってユニセフへ募金を

鹿児島県大口市立大口中学校

報告者 山本 教嗣 先生

総合的な学習の時間を利用して、大口中学校の3年生が「大中百貨店」という模擬会社を設立し、会社経営をおこないました。

このプログラムは、事業計画立案や株主総会、株式の発行による資金集めや市場調査、広告宣伝、商品仕入、バザー、益金の運用まで生徒の手で行われるものです。何もかも初めてのことで、戸惑いながらも、社長ら取締役となった生徒を中心に店舗で販売する商品や屋台用の飲食物を話し合いで決定し、仕入では値引きや料金支払方法などを自ら交渉するなど企業家精神を発揮することになりました。

4つの会社の中で「吟堀商事」と「寺山商店」



南日本新聞
2000年11月24日

は、会社設立時点からユニセフへの募金を目標にし、ユニセフの活動を学んだ後、益金の中からユニセフに募金することを益金運用の学級会で決めました。

地域を巻き込み、大きな反響を得た「大中百貨店」でしたが、半年間苦労して取り組んだ益金の額は小さいものでした。しかし、生徒自らの力で得たお金は、募金よりも充実感があったと思います。

最後に生徒の感想としては、「商品の仕入交渉が大変だったが、みんなと協力できてうれしい。いい経験ができたので今後も大中百貨店を伝統として残してほしい」取締役社長池崎欽太などでした。